

留 学 報 告 書

記入日:2017年2月15日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: グリーンリバーカレッジ 現地言語: Green River College
留学期間	2016年9月～2017年3月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2017年3月28日
明治大学卒業予定年	2019年3月

留学費用項目	現地通貨 (ドル)	円	備考
授業料	8,000	800,000 円	
宿舍費	5,350	535,000 円	
食費	5,000	500,000 円	
渡航旅費	1,760	176,000 円	
その他	1,500	150,000 円	旅行など
合計	21,610	2,161,000 円	

滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
	大学の寮
2)部屋の形態	
	<input type="checkbox"/> 個室 OR <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数4)
3)住居を探した方法:	
	留学先大学のホームページ
4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
	相部屋でも1人1つ個室があったため、そこまでのストレスはありませんでした。 ただ、騒音や清掃面でのトラブルもあったので、必要に応じてルームメイトと生活ルールを決めることをお勧めします。
現地情報	
1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?	
	<input checked="" type="checkbox"/> 利用する機会がなかった <input type="checkbox"/> 利用した:
2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
	留学先大学のアドバイザーと、日本人のアドバイザー、友人など。 留学生向けの相談窓口がありました。
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?	
	学校でのオリエンテーションや友人からの注意をうけ、夜の1人歩きはしないようにしました。 犯罪には巻き込まれませんでした。
4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。 (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)	
	寮、学校内ともにWi-Fi接続が可能でした。接続状況もよかったです。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
	デビットカードを作り、日本から直接入金してもらいました。 他に、念のためクレジットカードを持ち歩き、さらに現地の銀行口座を開設しました。
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
	ほとんどの物は調達できますが、現地に着いてから数日後に買い物に行くことになるため、箸は持参すると便利かもしれません。
7)授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)	
	デビットカードで支払い。 支払期間は授業登録から4日間以内。
卒業後の進路について	
留学を通して生じた、今後の進路についての考えについて教えてください。	
	留学前は、留学をしていれば就職活動で有利になると漠然と考えていましたが、実際に来てみると留学をしている人は多く、“留学をした”という事実だけでは、何も利点にならないと痛感しました。留学を通して自分の何が変わったのか、何を学んだのかということを明確にできなければ、この留学を将来に有効活用することはできないと思います。そのため、まずはこの半年間をじっくり振り返って考える時間が必要だと思っています。今後の進路としては、留学先大学で学んだ異文化間コミュニケーションや、人種間の問題に関する知識を生かしながら、国籍や人種にとらわれないホスピタリティーについて学びたいです。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
15単位	<input checked="" type="checkbox"/> 9単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intercultural Communication	異文化間コミュニケーション
科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2016 秋学期
単位数	5
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、グループワーク(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が2回
担当教授	Rebecca Carrier
授業内容	異文化・異人種間に生じる問題やその解決方法について
試験・課題など	中間試験はオンラインテスト、期末試験はオンラインテストとファイナルレポート 課題は計5回ほどのプレゼンテーション(個人・グループ)
感想を自由記入	試験は大変でしたが、先生の説明が分かりやすかったうえ、もともと興味のある内容だったため、あまり苦にはなりません。先生は誉め上手で、毎回のプレゼンテーションも憂鬱にならずにできて良かったです。 差別問題を取り上げることが多く、2つ目に紹介する American Minority and Ethnicity と内容がリンクするところがありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
American Minority and Ethnicity	アメリカ国内の少数民族と民族性
科目設置学部・研究科	American Minority and Ethnicity
履修期間	2016 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、オンラインディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に50分が5回
担当教授	Carlos Adams
授業内容	アメリカ国内に存在する差別の実情について
試験・課題など	毎週水・日曜日のオンラインディスカッション、2週間に1回のオンラインテスト 中間試験はなし、期末試験はファイナルレポート
感想を自由記入	課題は非常に難しいものでした。内容はひたすら差別に関する現実的な話で、楽しいとは言えませんが、日本ではあまり差別に触れる機会がないうえ、アメリカ国内でもこの授業はワシントン州以外では禁止されており、差別に関して深く学ぶにはとても貴重な機会になりました。 先生に関して: 評価は厳しくありませんが、声を聞き取るのに少し苦労しました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Public Speaking	パブリック・スピーキング

科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2016 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義+チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に50分が4回
担当教授	Rebecca Carrier
授業内容	色々な種類のプレゼンテーション方法について
試験・課題など	計5回のプレゼンテーション、試験はなし
感想を自由記入	20人ほどの少人数クラスのため、プレゼンテーションの練習にはとても役立ちました。前半はナーバスになることが多くありましたが、回数を重ねるごとに人前で話すことの恐怖に慣れていったと思います。 留学先で受けた授業の中で、最も実生活に生かせそうな授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Environmental Ethics		環境倫理	
科目設置学部・研究科	Philosophy		
履修期間	2016 秋学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に50分が5回		
担当教授	Rebeka Ferreira		
授業内容	環境汚染とその解決策について		
試験・課題など	毎日の予習(リーディング)、週1回のオンラインテスト、中間テストはなし。 最終課題:2人1組のペアで自由にテーマを決め、それについてのプレゼンを行う+パンフレットを作成して公共の場で呼びかけを行い、結果をレポートにまとめて提出。		
感想を自由記入	授業に関しては、先生のおかげで内容が分かりやすく、ついていくのはそこまで大変ではありませんでした。最終課題は大変でしたが、ペアの学生と協力してやり遂げたときの達成感がとても気持ちよかったです。 この授業を受け、自分の日頃の生活を見直そうと考えるきっかけになり、受けて良かったと思っています。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Art Appreciation		アート入門	
科目設置学部・研究科	Art		
履修期間	2016 冬学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が2回		
担当教授	Eric Ng		
授業内容	アート全般についての一般教養など		
試験・課題など	毎クラスごとにチャプターの確認テスト、最終試験は1人のアーティストまたはアート作品に関するレポート		
感想を自由記入	あまりアートに興味がない、知識のない人にも受けやすい授業でした。グループワークが多く、コミュニケーションを取るのにいい練習の場になったと思います。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2015年 1月～3月	
4月～7月	大学入学
8月～9月	
10月～12月	留学ガイダンス TOEFL iBT 受験(2回) 留学申し込み、学内選考
2016年 1月～3月	留学可否発表 留学、奨学金手続き
4月～7月	保険、航空券手続き ビザ面接 TOEIC ITP 受験 渡航前ガイダンス
8月～9月	出国 オリエンテーション、授業開始(秋学期)
10月～12月	中間試験、期末試験、冬期休暇 明治大学ゼミ入室試験
2017年 1月～3月	授業開始(冬学期) 中間試験、期末試験、春期休暇、帰国
4月～7月	帰国後書類の提出
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>留学したいと思い始めたのは高校生のころですが、その頃はただ英語が好きだからという曖昧な理由でした。</p> <p>大学生になって実際に留学しようと思ったのは、多文化社会のアメリカに留学することで、様々な文化の違いを肌で感じられると思ったのが主な理由です。私は将来外国の人々に、日本の良さを伝えられるような職に就きたいと考えており、そのためにはまず自分が外国の文化を理解しなければならない、また、自分の意見を相手に確実に伝える積極性を身につけたいと思い、最終的に留学を決意しました。</p>
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	<p>留学前には日本について学び、それを英語で伝える練習をしました。これは留学経験のある友人から勧められたことで、やっておいてよかったと思います。母国のことをしっかり理解しておくことは、日常会話だけでなく授業内のディスカッションでも役に立ちます。しておけばよかったと思うことは、英語のスラングを学んでおくことです。留学生同士で話すのは比較的簡単ですが、ネイティブは話すスピードが速いうえにスラングを使う回数が多いため、会話についていけただけでも大変でした。スピードは実生活で慣れるしかありませんが、スラングなら映画などで十分に学べるため、洋画を英語字幕で見ておくことをお勧めします。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>グリーンリバーカレッジを選んだ最大の理由は、この学校のコミュニケーション学部に興味を抱いたからです。私は以前から異文化や、異文化間コミュニケーション、人種差別などを学びたいと思っており、学校のホームページで学部・授業説明を読んだときにその内容に惹かれ、この学校に決めました。さらに、コミュニカレッジは小規模なので、学校に馴染みやすいと聞いたうえ、費用の面でも4年制大学に比べて留学しやすいと考えました。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>キャンパスはダウンタウンから車で40分、バスで2時間の郊外にあり、自然に囲まれて落ち着いた雰囲気です。都会と比べると不便なところもありますが、静かで治安も良く、暮らしやすいです。学生には留学生が多く、肩身の狭い思いなどはしませんでした。またコミュニカレッジということもあり16～18歳の生徒が多い印象を抱きました。キャンパス自体が小さめであるため、同じ授業を履修していない人とも顔を合わせる機会が多く、学生同士の仲がいいです。</p>
寮の雰囲気	<p>寮では月に1～2回、自由参加の映画鑑賞会や、小さなパーティーが開かれており、暇な時でも楽しく過ごすことができました。寮の形態は、1つの建物の中にいくつもの部屋が並んでいるのではなく、アパートのようにどの部屋にもリビングとキッチンがあり、友人と個人的に集まることも簡単です。友人の部屋のパーティーや食事会に呼ばれるのは、新しい人と出会って仲良くなるのに最適な環境でした。また、自炊をしていたため、ルームメイトや友人たちと自国の料理を振舞いあうことも楽しかったです。</p>
交友関係	<p>留学当初は、一緒に行った明治の友人やルームメイトなど、身近な人だけと行動していましたが、友人の友人と知り合っていく、輪がどんどん広がっていき、多くの人と色々な場所に出かけるようになりました。後期にはバドミントンクラブに誘われた上、運動の好きな子と仲良くなったことで、毎日ジムに通うようになり、そこで新たな友人たちと出会いました。また、ほぼ毎週末に学校主催のイベントがあり、そこに参加することで交友関係が広がりました。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>留学生活中に最も大変だったことは、寮内の騒音・清掃問題です。</p> <p>寮の部屋1つ1つに共有のリビングルームがあり、友人と集まる時は大抵この部屋を使用するため、たまにルームメイトが夜通しパーティーをして寝られないこともありました。また、ルームメイト4人のうち2人が掃除や洗い物をしなかったため、キッチンなどの共用スペースをきれいに保つのが大変でした。</p> <p>部屋内の問題については、ルームメイト同士で話し合ったり、置手紙を残すことでルールを決めて解決しました。</p>
学習内容・勉強について	<p>授業は基本講義形式が多いです。しかし、どの授業でも必ずグループやペアでのディスカッションを行います。初めの時期は教授の話聞き取るだけでも必死で、この先やっていけるのか不安になることばかりでしたが、先輩や友人に話を聞いてもらうことが大きな助けになりました。授業の時間中、ずっとリスニングの集中力を保つのは大変だったため、ノートを取ることで理解を補い、また、書き取りが追い付かないときには授業のスライドの写真を撮ったり、後で教授に聞きに行くこともありました。</p>

課題・試験について	課題の量や試験の難しさは、同じ授業でも教授によって変わります。初めの学期は何もかも慣れないことばかりだったので、いろいろな人から情報をもらい、易しめの授業を取りました。それでも日本で受ける授業より大変でしたが、同時にすべてが新鮮で楽しく、頑張ろうという気にもなりました。生徒用のサイトでは自分の現時点での成績チェック、教授との連絡が可能で、最終試験の時期は図書館が夜の12時まで開いているなど、学習環境が整っています。
大学外の活動について	大学外での交流はほとんどありませんでしたが、毎週木曜日に、キリスト教の夫婦が寮のラウンジで食事を振舞ってくれており、その人たちに連れられて教会でのミサに参加したりしました。日本では宗教に触れる機会が少ないうえ、宗教関連のトラブルを恐れ、関わらないようにしていたため、新鮮な体験でした。スポーツをしている友人は、自分で地域の大会や学校外のクラブに参加している人もおり、彼らと一緒に見学に行ったこともあります。私はオーケストラをやっていたので、地域の楽団を探して参加出来たらよかったです。
留学を志す人へ	当然ですが、留学に来れば普通の生活も授業もすべて英語で行われるため、日本にいる時よりもはるかに大変なことばかりです。そこで踏ん張れるか折れてしまうかは、自分次第ですが、留学前から明確な目的を持つておくことは、自分にとって大きな支えになると思います。また、初めからすべて順調にはいきません。つらい時には我慢せずに、友人や家族に話を聞いてもらってください。また、短期留学はあっという間に終わってしまいます、心残りのないように、やりたいことは何でもすぐに行うに移したほうがいいです。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	授業	授業	イベント	遊び
	昼食	留学生雑談会(昼食)	昼食	昼食	留学生雑談会(昼食)	遊び	遊び
午後	授業	授業	授業	授業	授業	遊び	遊び
	自習	自習	自習	自習	自習	遊び	遊び
夕刻	ジム	バドミントン	ジム	ジム	ジム	遊び	遊び
夜	夕食	夕食	夕食	キリスト教交流会(夕食)	夕食	遊び	遊び